



第14回 ICISF(International Critical Incident Stress Foundation) World Congress 参加報告

ICISF とは 28 か国 7,000 人からなる国際団体で、CISM 活動(注)の国際的なネットワークです。その定期国際会議として、第14回 World Congress が 2017 年 5 月 2 日と 3 日に米国ボルチモアにおいて開催されました。日本から、ALPA Japan /日乗連 CISM トレーナーで臨床心理士の中濱慶子 (PhD) Instructor と HUPER 委員 1 名、航空安全会議から 2 名の計 4 名が参加しました。(注: CISM とは Critical Incident Stress Management の略で、事故やインシデントによるストレスを緩和するプログラムです)



(1 日目) Mayflower Critical Support Team の Instructor

である Patricia L. Trutt 氏による「Building the Successful Team」の講義に参加しました。講義の内容は、CISM 活動における効果的な Care Team の作り方に関するものでした。参加者は航空関係者だけでなく、消防、警察、US Coast Guard、地域行政の Mental Support に関わる臨床心理士など、ICISF の概念が USA において様々な範囲に及んでいることを示しています。

この講義では、PSV (Peer Support Volunteer) の Recruiting ・選別の方法・そして効果的な Team の作り方・再教育の方法を紹介していました。それぞれの参加者が各分野で CISM の活動に従事しており、所属している団体内における PSV の Recruiting 方法や教育の内容を紹介し、各分野の特殊性を考慮に入れながら、工夫して取り組んでいること、またそれぞれの問題点や改善方法などについて活発な議論が行われました。日本ではまだ取り組みが遅れているこの分野の活動について、今後はより積極的に広範囲な啓蒙活動を行うこと、そして定期的な知識や経験の付与を行い、効果的な Team 作りが望まれます。

(2 日目) Aviation CIRP (Critical Incident Response Program : 米国における CISM の呼称) に、CISM Japan として出席しました。今回のテーマは「Compassion with Passion」で、各 CISM 団体から活動内容の報告、参加チームの国際ネットワークの形成、そして知識のアップデートが図られました。

CIRP 議長のルイズ・コリン氏 (彼はまた、IFALPA HUPER 委員です) と Boeing 社の Test Pilot であるクリストファー・キャップス機長から、Boeing 社における CISM 活動の導入の経緯、そして現状の説明がありました。Boeing Test Pilot Team では、経営側の協力の下、CISM Team が形成されており、相当の効果が得られています。例として、2014 年 10 月 31 日に発生した Virgin Gigantic の Test Flight 中に起きた事故では、Boeing CISM Team が乗員および家族のケアを担当し効果を発揮しました。またその他の航空機メーカーにおいても CISM の Training が実施、また今後予定されており、Airbus 社でも間もなく CISM の活動が開始される予定です。

「BACK TO THE COCKPIT」協会の創設者で、米国内での General Aviation (GA : 航空機使用事業) における事故の Mental Care を実施しているガス・ホーキンス氏から報告がありました。米国では、GA の事故やインシデントにおける Mental Support が組織的・包括的に実施されておらず、事故等に遭遇した乗員に対して周りの者が自発的に「Back to the Cockpit」という概念のもと、Mental Support にあたっているのが現状です。そのため、今後は CIRP がどのように GA へのケアを組織として実施していくのが課題となります。その点、CISM Japan は GA についても Critical Incident におけるケアや PSV の育成を実施しており、CISM Japan の利点を感じました。

CISM Japan から、中濱先生が日本における CISM 活動件数等の報告を行いました。その報告の中で、日本の CISM Team は様々な職種が集まったチームであり、航空における労働者全体を一つの Team が統括している利点を、過去の活動報告を基に強調しました。他国の参加団体では職種毎に CISM Team があり、個々に活動しているのが一般的です。そんな中、CISM Japan では様々な職種に対して PSV を育成し、包括的に活動を行っていることについて他団体から高い評価を得ました。

FedEx 社でパイロットとして現在も勤務する一方、ICISF の理事として CIRP 設立以来、その活動に尽力してきたピート・デリンバーク氏が、その設立までの経緯について解説しました。また、過去に FedEx 社で発生したニューアークでの事故（1997 年）等において CIRP の活動が効果的であったこと、2006 年の成田における事故では、CISM Japan の協力という国際的な Network が効果的に利用されたことが報告されました。現在も FedEx では労使が協同して CISM 活動が行われています。

1988 年に発生したアロハ航空の事故の当該副操縦士であったミミ・トンプキンス氏は、Critical Incident に遭遇した乗務員のケアの必要性を感じ、長年に渡って CIRP の活動に尽力してきました。現在はパイロットを引退し、メンタルヘルスカウンセラーとして Mental Support にあたっています。彼女は、航空における PSV 育成の重要性や、Peer だけでなく Mental Professional と共に CISM 活動を行っていく重要性を強調していました。



中濱慶子氏(中央)、ミミ・トプキンス氏(右)

サウスウェスト航空の客室乗務員であるエイリーン・ロドリグエツ氏は、客室乗務員における CIRP 活動の中心人物です。同航空では運航乗務員・客室乗務員毎に CISM Team が活動しており、約 1,500 名の客室乗務員に対して、労使協同で 74 名の PSV が Team を形成し活動を行っていることや、主基地において「Mental Health, Suicide Prevention」という冊子を渡すなどの啓蒙活動、実際のケアによって自殺者が減少したこと等の報告が実数と共に紹介されました。

ローズマリー・カッチャー氏は、FAA における Employee Assistant Program (EAP) の Mental Professional として FAA CISM Team と共に活動しています。CISM Team を持つことは、FAA の Recommendation 施策として重要であり、FAA 内に存在する職種別組合のそれぞれに CISM Team が存在し、Management の協力の元、EAP と共に活動しています。また、18,000 人の管制官が存在する National Air Traffic Controller Association からは、SFO におけるアジアナ航空の事故における Team の活動内容が報告され、ここでも CISM Program の重要性が示されました。

(最後に) Conference では聴講以外にも活発な Discussion が行われ、また講習以外の時間に交流を深め、国際的なネットワークを拡げることができました。欧米では CISM が航空のみならず広範囲な Community において実施されており、各 Community の CISM 活動が非常に実働的で、広く浸透していることを実感しました。ICISF は、広範囲において Critical Incident のケアに関して影響を持つ団体です。そのネットワークを有効に活用していくことが、今後の CISM Japan 活動においても重要であると言えます。日本における CISM 活動では航空の様々な職種が参加し、職種の枠を超えた活動を実施しています。一方で、今後も増加する航空需要の中で、どのように PSV の数を増やしていくか、またその質を高めていくかということが課題です。

ALPA Japan/日乗連 CISM 事務局では、事故やインシデントに遭遇した場合にサポートを実施しています。また、PSV の養成や訓練コースなども随時設定し、ALPA Japan HP でお知らせしていますのでご覧ください。

以上